



一から学ぶ海ごみ講座 開催しました！



- 日時 平成30年7月15日(日) 10:30~12:30
- 会場 丸亀市広島コミュニティセンター
- 講師 NPO法人アーキペラゴ副理事長 森田桂治 氏

7月15日(日)、丸亀市広島コミュニティセンターにて、一から学ぶ海ごみ講座が行われ、小学生親子28名が受講しました。海ごみが発生する原因や現状、海ごみによって動物などにもたらされる問題について学びました。



最初に広島コミュニティセンター大会議室で講義がありました。

まずは、講師の森田さんによるアイスブレイク。初対面の子どもたち同士で交流しあい、ワークグループに分かれました。

今回の講座は、香川大学生もアシスタントとして参加しており、小学生と一緒にグループディスカッションを行いました。「海ごみはどこからくる?」「誰が捨てる?」などの疑問に対して、みんなで意見を出し合いました。





輪ゴムを使って、テグスなどの海ごみが鳥のくちばしに絡まった状況を体験したり、発泡スチロールとポップコーンを使って、鳥が誤食をしてしまう状況を体験したりして、実際に動物が海ごみによってどのように困っているのかについて、わかりやすい説明がありました。



ミッドウェー島に流れ着いた海ごみが、実は日本から流れたものが多いというデータや、人工芝のかけらが多く流れ着いているなど、捨てたつもりのないものが知らない間に海に流れて世界中を巡っていることが解説されました。

後半では、「海ごみ」を夏休みの自由研究として活用するアドバイスをお話いただきました。



最後にフィールドワークとして、海岸に出てどのような海ごみがあるかを観察しました。直近の大雨の影響で、漂着物も多く、ペットボトルやレジ袋、また解説でも出てきた人工芝の破片なども見つかりました。

フィールドワークで海ごみを実際に目の当たりにした参加者からは、海ごみに対する問題意識がより一層高まったという感想がありました。